

町立  
指江図書館

TEL0996-88-6500



「日本のしきたりがまるごとわかる本」  
発行人 沢井竜太

今日が何の日なのかを確認して、1日の意味を感じながら暮らしてみたいかがでしようか。

町立  
鷹巣図書館

TEL0996-86-1111



「このあかいえほんをひらいたら」  
ジェシー・クラウスマイヤー 著

このあかいえほんをひらいてみて。次にちがう本がでてきて、最後はどうなるのかな？ わくわく楽しいえほんです。

町立図書館おすすめ

図書館においてある本の中からおすすめのものを選びました。バラエティに富んだ本を紹介します。

Pick Up New publication

長島文芸

Nagashima Bungai ながしまぶんげい

長島短歌会

活けをりし松の枝葉が不意に震ふ受話器を置いて  
テレビを点くる 中山タマエ  
呼び戻す術なく吾子は現し世を駆け足のごと生き  
て逝きたり 浜畑美代子  
歳末の届けにカサブランカ送ると言ふ娘に看取ら  
れて生きゆく吾か 浜畑 松枝  
水仙の香り流るるわが庭に家族揃ひて賀正に写る  
松元 睦子  
友におけ雨の日行くとの約束はかいなく過ぎて  
七十年経ぬ 市尾 操  
グランドゴルフの球追ふ老い等十五人話はずびつて  
冬の陽温し 岩下 ち江  
大杉に囲まれて在る古民家の郷愁まどふ囲炉裏に  
憩ふ 櫻平 頼子  
幼けなき孫らが老いの卓に来てこぼしつつか食ぶこ  
の夕灯り 米尾 和子  
凜として生きていらし傘寿なる友の賀正に背筋  
を伸ばす 坂之下典子

明神俳句会

蜜柑熟れ薩摩と肥後の国境  
バス停に母待つ陽向冬すみれ 淵脇 護  
手際良く若き庭師や年用意 大堂 早苗  
樟脳は昭和の匂ひ冬の服 白男川孝仁  
二階堂妙子

一般作品

学童のはじける声や冬の朝  
亡き父の愛せし小庭冬菫 大堂 正弘  
凜として路肩に清し冬すみれ 脇田 武志  
冬市場魚が跳ぬる午前四時 肥後 広行  
特急のごとき日々なる十二月 山寄加代子  
暮れて行く平成最後十二月 関 佳代美  
夕闇に浮かぶ古墳も冬至かな 二階堂恵子  
たがはずに巡る季節や冬すみれ 坂口 静子  
迫口 君代

「短歌」

南国の島とはいえど雪もふる海山美し花の長島 小林 貢  
行き交えど振り返るなき人の群れ詣での宮に光り 小林 如月  
射したり 中飯屋辰子  
帰りゆく出水の鶴にお別れを田んぼの土手でながめ見送る 母木 良平  
七割が生きのことふ賭けの人生賜りて十年過ぎ 町田 末則  
なん 宗方 清明  
情けなき思ふ用にならぬ辛い事調子悪いや寒いなるかな  
「俳句」  
こころの絵観し今朝はケリが鳴きおり